

【卒業生寄稿】

滝 美紗都

在モザンビーク大使館専門調査員

(2008年度卒業)

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。そして在校生の皆さんも新しい1年の始まりに期待を膨らませていることと思います。

私は現在、在モザンビーク日本国大使館の専門調査員として経済・開発協力を携わっています。

モザンビークは今発展に向け一步一步進んでいる国です。モザンビークでは、数年前、世界第三位の規模とも言われる天然ガスが見つかって以降、日本を含め様々な国からの企業進出が進んでいます。昨年は新大統領が就任、国の発展とビジネス環境の向上に向け少しずつ新たな試みが進められています。他方、国民の生活水準は依然として低く、人間開発指数は188か国中180位（UNDP、2015年人間開発報告書）。初等教育アクセスの不足、安全な水や医療アクセスの不足、電力不足など多くの課題が残っています。地方に行けば青空教室で勉強をしている子ども、裸足で水くみに汗を流す子どもたちもたくさんいます。この国の地雷完全除去宣言は昨年ようやくなされたところです。この国で、日本企業進出支援をしつつ、教育環境改善事業や人材育成事業を進めていくことが私の仕事です。

例えば、11年前、私が皆さんと同じ新入生だった頃、「ブラジル文化やポルトガル語に興味がある」というだけで、自分がここまでポルトガル語圏諸国に関わり、そしてモザンビークで働くことになるなど夢にも思っていませんでした。しかし、ポルトガル語学科での刺激的な日々が私の世界を大きく広げてくれました。また、在学時のポルトガル・アヴェイロ大学での1年間、大学院（グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻）でのポルトガル移民に関するフィールド調査は、ブラジルやポルトガル以外のポルトガル語圏諸国の国々への新たな扉を開いてくれました。

ポルトガル語学科の良さは、魅力的な世界や魅力的な人々との出会いに満ち溢れていることだと思います。もちろん、ポルトガル語との旅の中には雨の日も嵐の日もあることだと思います。しかし、自らが好奇心を持ち続ける限りは、魅力的な世界の発見と魅力的な人々との出会いがその先には待っています。そしてその発見や出会いは一生物となることでしょう。

"Se quiser ir rápido, vá sozinho, Se quiser ir longe, vamos juntos."

このポルトガル語学科での出会いが、魅力的な世界への旅の始まりとなることを祈願しています。

Boa viagem e boa sorte.

(なお、本内容は全て筆者自身の観点に基づく私見であり、何ら大使館の意見を代表するものではありません。)